

令和 8 年度 第 1 回長野市社会教育委員会 要旨

【 日 時 】 令和 8 年 7 月 24 日（金） 午前 10 時～午前 11 時 30 分

【 場 所 】 長野市役所第一庁舎 7 階 第一・第二委員会室

【 出席者 】 委 員 吉江委員長 細尾副委員長 大橋委員 小笠原委員

込山委員 篠崎委員 松坂委員 米望委員

事務局 前島教育次長 唐木教育次長 藤原家庭・地域学びの課長

小山長野図書館長 岩渕南部図書館長

北村家庭・地域学びの課主幹 寺島家庭・地域学びの課長補佐

細井家庭・地域学びの課係長 石坂家庭・地域学びの課係長

原家庭・地域学びの課主査 平野社会教育主事 竹内市公連会長

【 次 第 】

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 自己紹介

5 協議事項

(1) 令和 8 年度社会教育関係事業計画及び令和 7 年度実施状況について

（資料 1）

事務局より、配付資料に沿って説明

委 員 (質 問)	(1 ページ目) ・ 公民館・交流センターと生涯学習センターの利用者数が増加した理由は何か。
事務局	・ 具体的な分析はできていないが、中条交流センターでは交流センター化によりバーゼンドルファーを使った催し物等を行うことで、多くの利用者を集客している。 ・ 各館で工夫を凝らした講座を実施しており、その成果が数字として表れていると感じている。
委 員 (質 問)	(1 ページ目) ・ 今年度から「家庭の学び講座」について親子を限定せずに進めているようだが、現在の状況を教えてほしい。
事務局	・ 今年始まったばかりで見届けている状況である。
委 員 (意 見)	(8 ページ目) ・ 蔵書に関して、県で県史の編さんが始まるため、古い資料の保存をご協力お願いしたい。

事務局	・郷土資料については残していく方針である。 ・その他除籍の基準に沿って、傷んだ本はリサイクル市で市民に配布している。
委 員 (意 見)	・公民館等にも地域の資料があるので活用できる。
委 員 (質 問)	・予約システムが導入され、利用者は非常に助けられている。 ・もんぜんぷら座の予約システム導入状況を教えてほしい。
事務局	・もんぜんぷら座ではまだ予約システムは導入していない。 ・今後導入するかは全庁的な検討事項のため、ご意見いただいた件について、関係部局に伝えていく。
委 員 (意 見)	・七二会地区では公民館で子どもたちに向けた講座や世代間交流事業を多数企画していただいている。 ・地域との交流など学校だけでは企画が難しい部分を公民館が企画して、子どもたちの学びが広がっていると感じる。そのように人と人をつなげる交流の機会をお願いしたい。
事務局	・公民館等それぞれ工夫を凝らしながら講座等を行うことで、人とのつながりを作り、地域の活性化に寄与していきたい。
委 員 (質 問)	(4 ページ目) ・子どもキャンプについて、今年度より宿泊が復活して嬉しく思う。エアコンの設置など暑さ対策は大丈夫か。
事務局	・キャンプの前に一部屋と事務室にエアコンを設置したほか、昨年度に指定管理者が製氷機を導入した。 ・暑さ対策は完全ではないが、事故等がないように実施していく。

(2) 第三次長野市生涯学習推進計画の取組状況について(資料2)

事務局より、配布資料に沿って説明

委 員 (質 問)	・コロナのような予期できない事態が発生した場合、当初設定した目標の達成が困難となる可能性がある。本計画に限らず、計画中に見直しや下方修正等を行うことはあるか。
事務局	・コロナのような状況は目標設定時には想定できるものではなかった。現状ではコロナ前の状況に戻っていないため、次期5年間に向けた目標値は今回策定する計画で修正していく。 ・計画途中では、目標値の修正等を行っていない。

委 員 (質 問)	・今回の計画を踏まえ、目標値を下方修正した新たな計画を策定するという認識でよいか。
事務局	・コロナ前の目標値を基準とすることが望ましいが、現状を踏まえると困難なため、今年度等の数値を基準として計画を策定していく。

(3) 第四次長野市生涯学習推進計画策定における進捗状況について(資料3)

委 員 (意 見)	・長野市の部活動の廃止について全国放送で報道されていた。 ・部活動が廃止になったあとに、放課後の子どもたちが地域でいきいきと活躍できる場ができたらい。 ・松代では地区のお祭りで中学生がお店を出すなど、主体的に活動している姿が見られる。
事務局	・部活動の地域展開については、様々な課題があるため、学校教育課をはじめ、関係各課で連携して取り組んでいく。 ・子どもたちの居場所という観点では、スポーツや文化芸術活動に加え、地区のお祭りへの参加やボランティア活動などを希望する子どももいることから、地域全体で子どもたちの居場所や活躍の場を創出していくという視点が今後必要となる。
委 員 (意 見)	・部活動の地域展開については、指導者や活動場所の確保、子どもたちの送迎手段等、様々な課題がある。こうした実態も十分に聞き取り、整備を進めていただきたい。
事務局	・関係する部署中心に課題を整理していく。 ・現在、子どもたちを対象にアンケート調査・実態調査を行っている。調査結果を基に課題を把握し、どのような対応が可能か検討していく。
委 員 (質 問)	(資料3-2) ・第3次の計画では「生涯学習」という用語で統一されていたが、第4次の計画(素案)では「社会教育」という用語が使われている。経緯を教えてください。
事務局	・社会参画と生涯学習のサイクル(資料3-3 2ページ目)の中では社会教育が重要な役割を担っている。人と人とのつながりを育むという観点からも社会教育は重要であり、当課としては、その推進を図るため、「社会教育」という用語を次期計画においては使用する方向でいる。次回の会議で生涯学習と社会教育の概念図を資料としてお配りしたい。

委 員 (質 問)	(資料 3 - 1 9 ページ目) ・子どもの意見ミーティング概要まとめの部分で、「自由で探究的な学び、参加しやすい地域活動を求めている。」とあるが、その子どもたちの思いを実現するためにも、学校での学びをさらに社会と連携していくことが今後重要となる。社会教育・生涯学習と学校教育の連携という面で何かこれからの見通し等があれば教えていただきたい。
事務局	・総合的な学習や生活科等では地域とのつながりの中で行っているものが多い。 ・中学校であれば、地域での学びに加えて、学んだことをより外に出て、「私たちにできる社会貢献」という形で社会とつながってきている。 ・学校外において、つながりを確保できるかという観点では、これまで部活動を行っていた時間帯を活用することで、子どもたちが主体的に地域とつながる機会が生まれる可能性はある。
委 員 (意 見)	・学校において公民館等を知る機会を設けるとともに、子どもたちが調べ学習や夏休みの自由研究などで公民館等を活用できるようになれば、より連携が深まると思う。
委 員 (意 見)	・七二会小学校は公民館の力を非常に頂いており、公民館で子どもたちが講師となって地域の方々に教えるという活動もしている。公民館と学校がつながり、様々な活動が広がっていく可能性は大いにあると感じている。 ・養蚕学習の一環で、シルク灯籠を作り、信州新町の道の駅で販売をしたり、地域の方に注文をしていただいたりしているが、そういった活動も地域の方々に非常に喜ばれている。
事務局	・地域とのつながりがあると、地元への愛着が生まれる。各地区に公民館・交流センターがあるため、それぞれ地域の特性に合った活動を模索していきたい。
委 員 (意 見)	・回覧のチラシを見ると、講座の対象が 60 歳以上になっているなど子どもたちを対象にした講座のイメージがあまりない。地元の公民館でもっと若い世代の方が参加できる講座等があったらよい。
事務局	・回覧だと公民館の講座以外のチラシも入っており、「かがやきひろば」の講座だと対象が 60 歳以上となっている。 ・市有施設を広く使っていただくということは市長公約にもあるので、公民館・交流センターも若い世代に使っていただきたい。

	・豊野防災交流センターでは交流ラウンジがあり、多くの小中学生に利用していただいている。また、夏休みに部屋を自習室として開放している公民館等もある。28 館に南部図書館の分室があり、本の貸し借りのほか、学習スペースを設けている施設もあるので有効に利用していただきたいと考えている。 ・子どもたちなど若い世代が参加できる講座等となると土日がメインとなる。各館に情報提供して、そういった講座を企画できるよう検討していく。
--	--

6 報告事項

- ・芋井交流センターの新築移転について
- ・施設案内予約システムの導入について

7 事務連絡

8 閉会